

・ **インフルエンザ H1N1 型の流行状況**

世界保健機関 (WHO) は 8 月 10 日にインフルエンザ H1N1 型の流行がポストパンデミック期に入ったことを発表した。これは事実上のパンデミック終息宣言であり、流行は続いているものの、季節性レベルの流行になったことを意味する。

http://www.who.int/csr/disease/swineflu/notes/briefing_20100810/en/index.html

WHO が 2010 年 8 月 13 日に報告した最新流行状況でも、インドやニュージーランドでは患者数が増加しているが、それ以外の地域では大きな流行がみられていない。なお、インドでは西部のマハラシュトラ州で流行が拡大しており、8 月 2 日～8 日にかけて 70 名以上が死亡した模様である。

http://www.who.int/csr/don/2010_08_13/en/index.html

・ **鳥インフルエンザ H5N1 型の流行状況**

WHO によれば、2010 年 7 月以来、H5N1 型の患者はエジプトで 2 名、インドネシアで 3 名報告されている。また、今年になってから全世界の患者数は 36 名 (17 名死亡) で、昨年並みの数で推移している。国別ではエジプトが 21 名、ベトナムが 7 名、インドネシアが 6 名である。

http://www.who.int/csr/disease/avian_influenza/en/index.html

国連食糧農業機関 (FAO) の発表では、家禽の間での H5N1 型の流行は、6 月以降、エジプト、バングラデシュ、インドネシア、ベトナム、ロシアなどで報告されている。

<http://www.fao.org/avianflu/en/index.html>

・ **東南アジアでデング熱が流行**

東南アジア各国は雨季を迎えており、蚊に媒介されるデング熱の患者数が増加している。タイでは今年になり 6 月末までに 2 万 6000 名の患者が確認された。マレーシアでも 6 月末までに 2 万 3000 人の患者数が報告されたが、昨年と比較して大きな増加はない (Pro MED 2010-7-5)。一方、フィリピンでは 6 月末の時点で患者数が 2 万 5000 人となっており、これは昨年の同期より 40% の増加である (外務省広域情報 2010-7-23)。

なお、台湾南部の高雄でも、近年はデング熱の流行がみられており、今年も 10 名程度の患者が発生している (Pro MED 2010-7-27)。こうした地域に雨季に滞在する際には、蚊に刺されない注意を心がけていただきたい。

・ **インドのムンバイでマラリア患者が多発**

インドのムンバイで今年になりマラリア患者が多発している。患者数は6月中旬までに2万人以上に達した。7月になると患者数はさらに増加し、2週間で1万人近い患者が記録されている(Pro MED 2010-7-22)。死亡者も1月から8月上旬までに40名以上でている(Pro MED 2010-8-8)。

ムンバイでは近年になり高層ビルの建築が盛んになっており、その影響で市内に水溜りが数多くできている。このため蚊の発生も多く、これがマラリア流行の一因になっているようだ。この地域では従来から良性の三日熱マラリアが多かったが、死亡者が発生していることは、熱帯熱マラリアの流行がおこっている可能性がある。マラリアを媒介する蚊は夜間吸血する習性があり、ムンバイに滞在する日本人は、夜間、蚊に刺されないよう注意することが大切である。また、現地に滞在後、1週間以上たって発熱がみられた場合は、マラリアの可能性があるので、迅速に医療機関を受診していただきたい。なお、予防薬の内服も効果的であるが、副反応が高頻度におこるため、感染リスクが高い場合にのみ実施すべきである。

・ロシアのハバロフスクでポリオ患者が発生

ロシア極東のハバロフスクで7月上旬に乳児1名がポリオを発病した(Pro MED 2010-7-23)。この乳児は中央アジアのウズベキスタン生まれで、家族とともにハバロフスクを訪れていた。

中央アジアのタジキスタンでは今年4月からポリオの流行が発生しており、乳幼児を中心に100名以上の患者が確認されている(CDC Travelers' Health 2010-6-3)。この流行は隣国のウズベキスタンにも波及しているため、この症例の乳児も母国で感染したものと推測される。ロシア国内には中央アジア出身の旅行者や移民が多く、同国に滞在する者にはポリオへの注意を喚起する必要がある。たとえば衛生状態の悪い環境に滞在する者には、ワクチンの追加接種も検討すべきである。

・インドネシアのバリ島で狂犬病患者が増加

日本人観光客の多いバリ島では狂犬病の患者数が増えており、最近2年間で76名が死亡した(Pro MED 2010-8-6)。また、最近半年で3000名以上がイヌに咬まれ、ワクチン接種などの処置を受けた模様だ。このため、狂犬病ワクチンの品不足も伝えられている。同島ではイヌなどの動物に近寄らない注意をするとともに、医療機関の少ない場所に滞在する際には、出国前に狂犬病ワクチンの接種を受けておくことを推奨する。

・ブラジルでデング熱が大流行

ブラジルでは今年になり73万人のデング熱患者が発生しているが、これは昨年同期の2倍以上の数になっている(外務省広域情報 2010-7-16)。このうち18万人以上は日本人滞在者の多いサンパウロ州からの報告だった。

・ギリシャで西ナイルウイルスの流行が発生

ギリシャのマケドニア地方では、8月から原因不明の脳炎患者が散発していたが、この原因が西ナイルウイルスであることが判明した。8月12日までに患者数（疑いを含む）は30名以上にのぼっている（Pro MED 2010-8-15）。

このウイルスは蚊に媒介される病原体で、ヒトに感染すると発熱をおこすとともに、高齢者などで脳炎を併発することが知られている。1990年代後半から米国でも流行がみられているが、ギリシャでは今回が最初の流行となった。

・オランダでQ熱の流行が鎮静化

2009年からオランダ南部の農場でQ熱の流行が発生していたが、オランダ政府は2010年7月中旬に流行がほぼ終息したことを発表した（CDC Travelers' Health 2010-7-21）。患者数は2009年以来、2000名以上に達した。

Q熱はリケッチアによる感染症で、もともとは家畜（牛、羊、ヤギ）に流産などをおこす疾患である。感染動物の糞尿に病原体が排泄されるが、これに汚染された粉塵などをヒトが吸入して感染する。ヒトではインフルエンザ様の症状を呈するが、肺炎や肝炎などの重篤な症状をおこすことがある。予防には感染した家畜のいる農場に近づかないことが最も重要である。また未殺菌の乳製品の摂取も控えるようにする。